

近代

「円」とにちぎん

19世紀後半

20世紀

The Era of the Yen and the Bank of Japan

1858 (安政5) 年、日本はアメリカなど5ヶ国と通商条約を結び、各国との本格的な貿易が始まりました。世界市場に参加した日本は、近代化への道を歩み出しました。

明治維新の後、新しい通貨制度を整えることとなった日本では、統一通貨「円」が導入され、さまざまな試みを経て、日本銀行が発行する紙幣が全国で流通するようになっていきました。

Modern Times From the late 19th century to the 20th century

Japan began full-fledged international trade after it concluded treaties of amity and commerce with five countries including the United States in 1858. Japan started on the road toward modernization by entering global markets.

Japan, on its way to a new currency system after the Meiji Restoration, adopted the Yen as its single currency. After a series of trial and error, banknotes issued by the Bank of Japan started to circulate nationwide.

江戸時代 Edo Era	明治時代 Meiji Era	大正時代 Taisho Era	昭和時代 Showa Era
19世紀 半ば Mid-19th century	19世紀 後半 Late 19th century	19世紀末 End of 19th century	1920年代 1920s
■開港後の通貨の混乱 Currencies in disarray after the opening of the treaty ports	■円の導入と日本銀行の設立 Birth of the Yen and the Bank of Japan	■金本位制の採用 Adoption of the Gold Standard	■金融恐慌 Financial Crisis
			1930~40年代 1930s-40s
			■金本位制からの離脱 Departure from the Gold Standard



1

幕末開港

金貨の流出と物価の高騰

Outflows of Gold Coins and Price Inflation

幕末開港の影響

The Impact of the Opening of the Treaty Ports

開 港により海外との本格的な貿易が始まった。当初、国内では海外より金割安となっていたことから、金貨が海外へ流出した。開港直後には輸出品の値段が上がり、さらに幕末にかけて、激しいインフレ(物価上昇)が起こった。



幕末の物価上昇を風刺した錦絵
A Woodblock Print Depicting Price Inflation
値上がりした商品を人々が高木の上からおろそうとしている。

【樹上商易諸物引下図】

不平等条約における貨幣についての条項

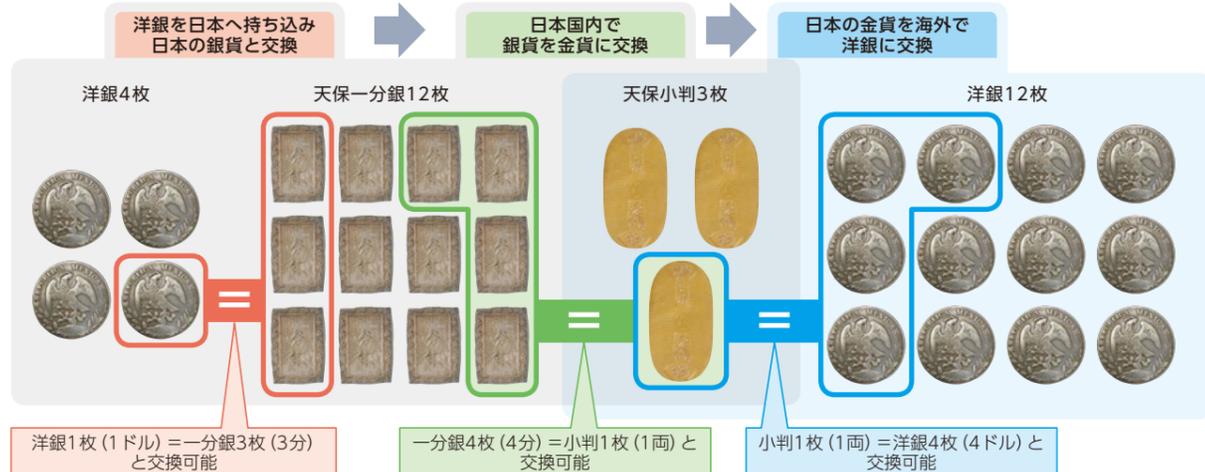
1858(安政5)年、江戸幕府はアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスの5ヶ国と修好通商条約を結んだ。不平等条約として知られ、貨幣についても日本にとって不利な条約であった。



【亞墨利加国条約並税則】

金貨流出のカラクリ

金貨の流出は、当時の日本の金銀比価が約1:5であったのに対し、外国の金銀比価が約1:15であったことにより起こった。外国商人は日本で4枚の洋銀を一分銀に交換し、さらに小判に交換し海外へ持ち出せば、洋銀12枚を得られた。



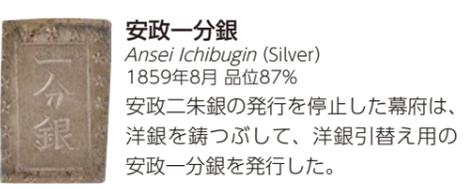
短命に終わった安政二朱銀

幕府は金貨流出を防ぐため、二朱銀2枚(1分)に含まれる銀の量を洋銀1枚(1ドル)とほぼ同じにした安政二朱銀を開港直前に発行した。欧米諸国が「洋銀の日本国内での価値が下がる」と抗議したため、幕府は安政二朱銀の発行を停止した。



開港した横浜
Yokohama, the Treaty Port

安政二朱銀との金銀比価を海外とほぼ同じにすることで、金貨流出を防ごうとした。



洋銀 改三分定 Mexican Silver Dollar Used as 3/4 Ryo in Gold 1859年12月

幕府は、三分で通用することを示す極印を打った洋銀をそのまま国内で通用させることにした。しかし実際にはあまり流通せず、極印打ちは半年で打ち切られた。

金貨流出の収束

万延の改鑄(1860年)で金貨の重さを従来の3分の1としたため、国内の金銀比価は海外とほぼ同じとなり、金貨の流出は収束に向かった。



2 幕末期のお金

Money During the Final Days of the Edo Era

幕府・藩が発行したお金

Money Issued by the Edo Shogunate and Individual Clans

幕末には、江戸幕府・各藩が発行した紙幣や金貨・銀貨・銭貨など、さまざまな貨幣が使われた。海防の充実や内戦などの財政支出にあてるため貨幣の発行量が増加し、インフレが進行する中で、額面の大きな貨幣も発行されるようになった。

江戸幕府が発行した貨幣

幕府は、一文銭を回収して代わりに四文銭を発行したほか、大政奉還の直前に紙幣を発行することとした。

幕末期の藩札

幕末にも多くの藩により藩札が発行され、地域の貨幣不足を補った一方、増加する藩財政の支払いにあてられることも多かった。



寛永通宝 鉄四文銭
Kan'ei Tsuho (Iron, 4 Mon)
1860年



文久永宝 銅四文銭
Bunkyo Eiho (Copper, 4 Mon)
1863年



箱館通宝
Hakodate Tsuho
1856年



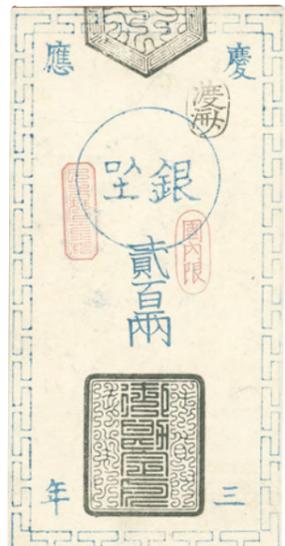
丹後田辺藩札
Tanabe Clan Note
1864年



土佐高知藩札
Kochi Clan Note
1866年



兵庫開港札
Hyogo Treaty Port Note



江戸及関八州通用札
Note in Edo and Kanto Area

memo 幕末の物価上昇を風刺した錦絵



「子供遊風あげくらべ」

幕末期に地方で発行された金属貨幣

幕府は原則として藩が金属貨幣を発行することを認めていなかったが、幕末にかけて主に小額貨幣の不足を補うため幕府の許可を得て金属貨幣を発行する藩が相次いだ。



出羽秋田藩
秋田鑄銭 (銅)
Akita Tsubasen (Copper)



常陸水戸藩
水戸虎銭 (銅)
Mito Torasen (Copper)



薩摩鹿児島藩
琉球通宝 (銅)
Ryukyu Tsuho (Copper)



出羽秋田藩
秋田封銀 (銀)
Akita Fugin (Silver)



陸奥盛岡藩
細倉当百銭 (鉛)
Hosokura Tohyakusen (Lead)



出羽米沢藩
米沢鉛銭 (鉛)
Yonezawa Namarisen (Lead)

memo

幕末の貨幣事情の風刺画



幕末開港後の物価の高騰を、小判 (右上) を大将とする貨幣軍と米俵 (左上) を大将とする商品軍の戦い (「値段を負けろ」 「いや負けぬ」) として描いた風刺画。右には洋装の外国銀貨や和装のさまざまな日本の貨幣が描かれ、当時の貨幣事情がうかがわれる。

「マケロマケヌ 売買大合戦」

3 明治維新时期のお金

Money Issued Right After the Meiji Restoration

明治政府・藩などが発行したお金

Money Issued by the Meiji Government, Individual Clans and Prefectures

新 政府は勿建て銀貨の通用を停止したが、藩札の発行は認めたほか、政府自身も両建ての金貨・銀貨・紙幣を発行した。社会の混乱が続くなかで新政府や藩などが増発した紙幣の価値は下落した。

明治政府が発行した「両」建ての紙幣

財政基盤が確立していなかった明治政府は、旧幕府軍との戦費調達などのため両建ての紙幣を発行した。



太政官札 金十両札
10 Ryo Note Issued by the Cabinet
1868年

日本で初めて全国的に流通が認められた紙幣で、両を単位とする。金札とよばれたが、金貨との交換は保証されていなかった。



民部省札 金一分札
Note Issued by the Mimbusho Ministry
1869年

両未満の小額貨幣不足を補うため発行された。

貨幣司による金貨・銀貨

貨幣製造を担う政府の貨幣司のもとで、旧幕府時代と同種類の金貨・銀貨がつくられた。含まれる金銀の割合が低く、偽造された貨幣が出回るなど、円滑な商取引の障害になった。



二分金
Kaheishi Nibukin (Gold)
1868年



一分銀
Kaheishi Ichibugin (Silver)
1868年



一朱銀
Kaheishi Isshugin (Silver)
1868年

明治維新时期に地方で発行された紙幣

明治維新後も、各藩は引き続き藩札を発行したほか、旧幕府領などに新たに設けられた府県も紙幣を発行した。これらの紙幣は地域の貨幣不足を補った一方、藩や府県の支払いにあてられることも多く、価値が安定しているものと下落するものがあった。



大和小泉藩札
Koizumi Clan Note



日田県札
Hita Prefectural Note

為替会社紙幣

全国8都市に設立された為替会社には、預金や貸出とともに紙幣の発行が認められた。一定額の金貨との交換(兌換)を約束した金券をすべての為替会社が発行したほか、銀券・銭券を発行した為替会社もあった。



東京為替会社紙幣 (金券)
Tokyo Kawase Kaisha Bank Note
1869年

金券の裏面には兌換を約束する言葉が英文で書かれている。



日本橋近くにあった東京為替会社
Tokyo Kawase Kaisha Bank
near Nihonbashi
[新聞名所 大坂町商社]



横浜為替会社紙幣 (洋銀券)
Yokohama Kawase Kaisha Bank Note
1872年

両建ての金券のほか、外国銀貨と兌換可能な洋銀券も発行した。



大坂為替会社紙幣 (金券)
Osaka Kawase Kaisha Bank Note
1869年

当時の新技術である写真(大阪通商司玄関)が偽造防止のために表面に貼られた。

4 「円」の誕生

金貨・銀貨・銅貨と紙幣の発行
The Birth of the Yen

新貨条例によるお金

Money Under the New Currency Act

明 治政府は、1871 (明治4) 年に新貨条例を制定し、全国統一の新しい貨幣単位「円」(圓) を導入し、近代洋式製法による金貨・銀貨・銅貨を発行した。また、兌換を目指して政府紙幣を発行したが、政府の手元にある金銀が不足していたため、政府紙幣の大部分は不換紙幣となった。

円の誕生

新貨条例 (1871年) により、政府は法令上、金本位制 (金1.5g=1円) を採用するとともに、十進法の貨幣単位「円・銭・厘」を導入し、貨幣単位は1円=100銭=1,000厘となった。



二十円金貨 20 Yen (Gold)
 十円金貨 10 Yen (Gold)
 五円金貨 5 Yen (Gold)
 二円金貨 2 Yen (Gold)
 一円金貨 1 Yen (Gold)
 五十銭銀貨 50 Sen (Silver)
 二銭銅貨 2 Sen (Copper)
 一厘銅貨 1 Rin (Copper)

貿易のためのお金の発行

当時のアジアでは貿易には銀貨 (メキシコ銀) が使われており、政府は貿易に使用するための銀貨を発行した。この銀貨はやがて国内でも使用されるようになった。



貿易銀 (貿易用一円銀貨)
 1 Yen Coin for Foreign Trade (Silver)
 1871年
 当時の為替レートは、1円=約1米ドルであった。

円単位の政府紙幣



大蔵省兌換証券一円券
 1 Yen Convertible Treasury Note
 1871年

日本初の円単位の紙幣。為換座三井組の名義で発行された。縦型の藩札の形式を引き継いでいる。



新紙幣「明治通宝札」一円紙幣
 1 Yen New Government Note
 1872年

紙幣統一のために発行された不換紙幣。当初はドイツで印刷した後に日本で「明治通宝」の文字などを補っており、ゲルマン紙幣ともよばれた。



改造紙幣「神功皇后札」一円紙幣
 1 Yen Renewed Government Note
 1881年

新紙幣「明治通宝札」の低額面から高額面への変造が多発したことなどから発行された。横長、人物の肖像入りなど欧米の紙幣の形式を取り入れて日本国内でつくられた。



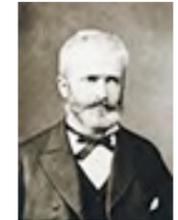
「円」の起源

「円」(圓) の由来には諸説あり、以下のような説が挙げられている。

1. 中国で西洋の円形銀貨を「銀円」「洋円」と呼んでいたことが幕末に伝わり、金の単位「両」を「円」ということがあった
2. 貨幣の形状を円形に統一したため「円」と名付けた
3. イギリス香港造幣局の機械を譲り受け、香港銀貨の名称「円」(圓) を採用した

◆兌換紙幣と不換紙幣

一定額の金貨や銀貨など (正貨) との交換が保証された紙幣を「兌換紙幣」、金貨や銀貨などとの交換が保証されていない紙幣を「不換紙幣」という。



国立印刷局 お札と切手の博物館蔵

紙幣をデザインしたイタリア人
 エドアルド・キヨッソーネ
 Edoardo Chiossone, the Designer of Modern Japanese Paper Money
 「神功皇后札」の肖像はイタリア人彫刻家キヨッソーネが印刷局の日本人をモデルに肖像を彫った。キヨッソーネはこの後も最初の日本銀行券「大黒札」などのデザインを手がけた。

memo

大阪の造幣局

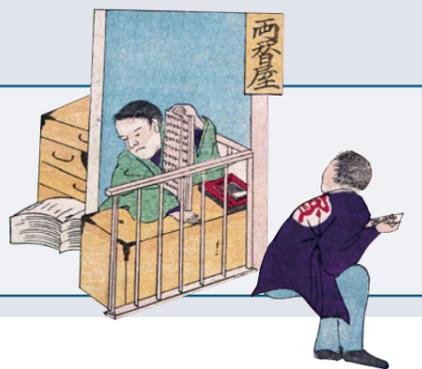


「浪花名所之内」川崎造幣局

1868年、政府は大阪に新しい貨幣製造所を建設することを決め、イギリス香港造幣局で休止中の機械を購入するとともに、イギリスから技術者を招き、1870年から新貨幣を製造した。

5 新しいお金との交換

The Exchange of Outdated Currency



江戸から明治へ

Transformation from the Edo Era to the Meiji Era

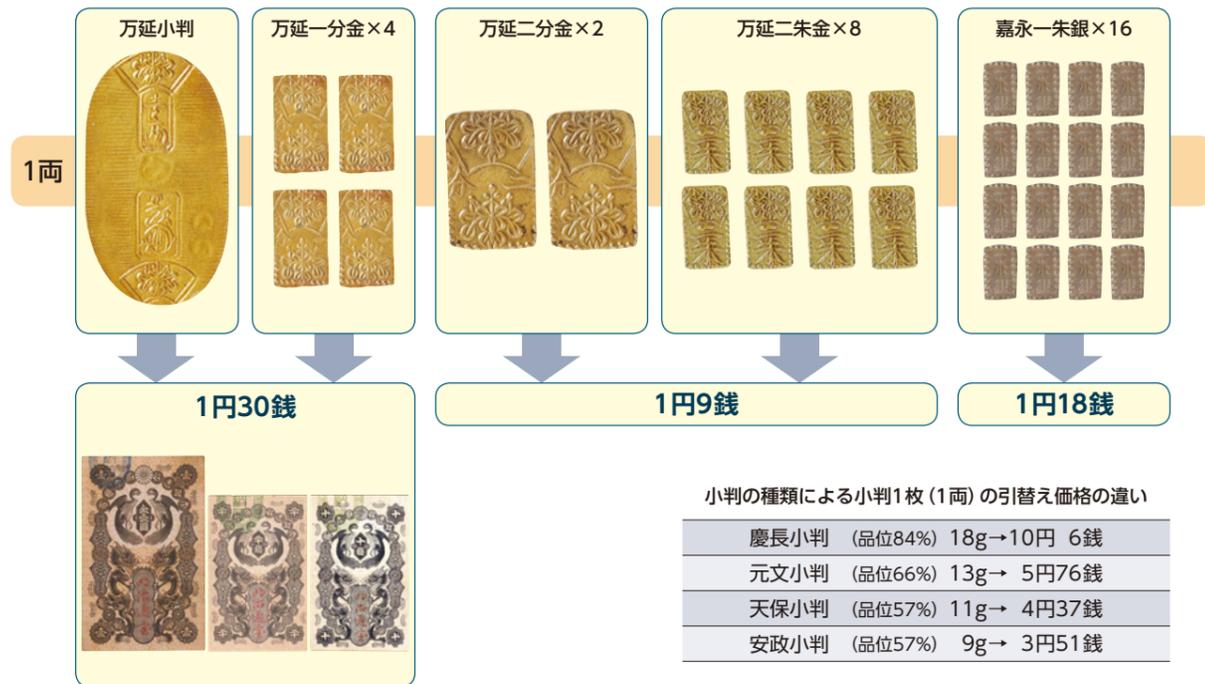
円 単位のお金を発行するようになった明治政府は、幕府が発行した金貨・銀貨・銭貨や各藩が発行した藩札、政府自身が発行した両建ての政府紙幣などを回収し、円単位のお金と引替えた。明治政府は、旧貨幣の種類ごとに、実際の通用価値などを参考にして新貨幣との引替え価格を定めた。

江戸幕府発行のお金の引替え

江戸時代の金貨・銀貨は、金銀の品位などをもとに定められた引替え価格により新しいお金と交換された。

[金1両の引替え価格] Exchange Rates of 1 Ryo Gold Coins

同じ1両でも種類により引替え価格が異なった。



memo

切替えの際の工夫

江戸幕府発行の銭貨の通用

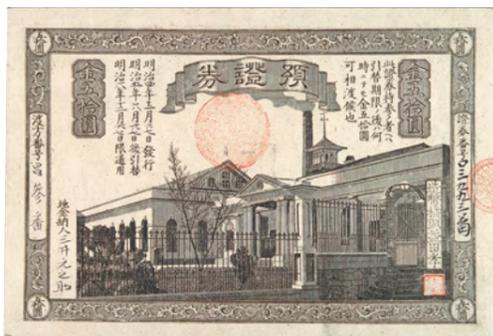


寛永通宝
鉄一文銭 → 1/16厘

明治政府は、小額貨幣の不足を補うため、江戸時代に発行された銭貨を新貨幣の単位に読み替えて通用させた。

古金銀預証券

江戸幕府の貨幣と引替えに明治政府が発行した預り証で、貨幣と同様に通用した。



明治政府発行の「両」建て紙幣の引替え



太政官札
1 Ryo Note Issued by the Cabinet
金1両



新紙幣「明治通宝札」
1 Yen New Government Note
1円



明治政府発行の貨幣と両替屋の店頭
Money Issued by the Meiji Government and
the Counter of a Moneychanger

藩札の引替え

藩札や明治維新後に発行された府県札は、引替え準備高(金貨・銀貨の手持ち準備)などをもとに定められた引替え価格により、新紙幣および小額貨幣に交換された。引替えの際、藩札の価格には藩によって大きな開きがあった。



信濃松代藩札
1 Ryo Matsushiro
Clan Note
金一両札
↓
88銭9厘



薩摩鹿兒島藩札
1 Ryo Kagoshima
Clan Note
金一両札
↓
32銭2厘

銭・厘単位で流通させた藩札

明治政府は、小額貨幣である銅貨より金貨・銀貨の製造を優先させた。小額貨幣の不足を補うため、新しいお金の単位で5銭未満1厘以上に相当する藩札や府県札に新しい額面の印を押し、通用させた。



大蔵省印
Seal of the Ministry of Finance

これらの藩札などは1879年までに新紙幣および小額貨幣と引替えられた。



伊勢度会府札
1 Momme Watarai
Prefectural Note
銀一匁札
↓
1銭4厘



備後福山藩札
2 Fun Fukuyama
Clan Note
銀二分札
↓
1厘

6

広がる民間銀行

近代的な銀行制度の始まり
Private Banks Flourish



国立銀行の広がり

The Spread of the National Banks

海 外貿易や国内産業の振興を金融面で支えるため、欧米をモデルにした民間銀行が各地に設立された。このうち、国立銀行はアメリカのナショナル・バンクをモデルとする銀行で、紙幣の発行が認められた。

国立銀行の設立と紙幣の発行

当初、国立銀行の発行する紙幣には金貨との兌換が義務づけられたため、4行しか設立されなかったが、1876年の法令改正により金貨との兌換が不要となり、あわせて153行が設立された。



国立銀行紙幣(旧) 十円
10 Yen Japanese National Bank Note (Old Type)
1873年

アメリカ ナショナル・バンク紙幣 10ドル
10 Dollars United States National Bank Note
1864年

1872年の国立銀行条例に基づき発行された国立銀行紙幣の表面には兌換文言が記され、裏面には各額面の金貨が描かれている。発行されるとすぐに兌換されることが多く、あまり流通しなかった。

ナショナル・バンクとは国の法律に基づき民間で設立される銀行という意味で、国法銀行というべきであったが、当時「国立銀行」と訳された。

初期の国立銀行紙幣はアメリカの印刷会社に委託してつくられたため、規格・デザイン・色などがアメリカのナショナル・バンク紙幣に似ていた。



国立銀行紙幣(新) 五円
5 Yen Japanese National Bank Note (New Type)
1878年



国立銀行紙幣(新) 一円
1 Yen Japanese National Bank Note (New Type)
1877年

五円紙幣の表面には工場の煙突と鍛冶屋、一円紙幣の表面には船の舵を握る水兵が描かれている。これは、工業立国(殖産興業)と海外進出を目指す政府の方針を表していると考えられる。

民間銀行の経営

民間銀行の経営には、欧米の制度や技術が導入されるとともに、江戸時代から金融や貨幣発行に携わってきた両替屋や各藩出身者のノウハウが活用された。



最初の私立銀行「三井銀行」の前身「為換バンク三井組」
Kawase Bank Mitsui-gumi, Precursor to Mitsui Bank, the First of the Ordinary Banks in Japan
【東京駿河衛国立銀行繁栄図】
江戸時代から金融業を営んできた商人などによって、国立銀行のほかに、紙幣の発行権限を持たない私立銀行が設立された。

通り右手中央の和洋折衷の建物が為換バンク三井組

memo

民間銀行の役割の変化



民間銀行の広告

1882年に日本銀行が設立され、1883年に国立銀行条例が改正された。国立銀行は、開業免許が与えられてから20年経過した後は、紙幣の発行を行うことができなくなり、私立銀行として預金や貸出などの業務を行うこととなった。

memo

外国銀行の日本支店発行の紙幣



香港上海銀行紙幣 洋銀5ドル

1866年
日本に支店を持つ外国銀行も紙幣を発行した。1865年に香港に設立された香港上海銀行は、設立の翌年に横浜に支店を開設し、外国為替、紙幣の発行などの業務を行った。